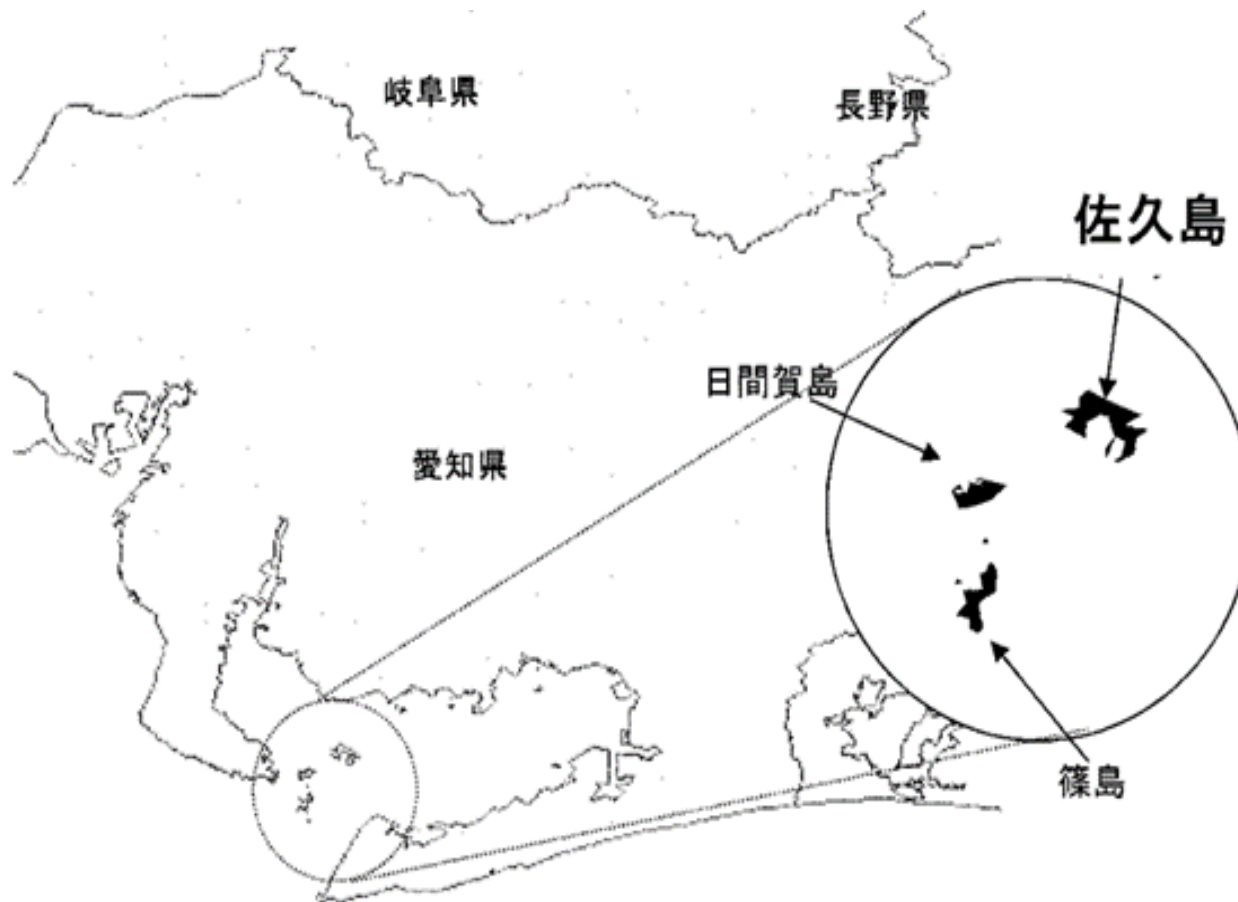


佐久島

愛知県西尾市

交流共創部佐久島振興課



愛知県三河湾に浮かぶ3つの有人離島のひとつ「佐久島」

「佐久島」は西尾市、「日間賀島」「篠島」は南知多町と行政区が異なります。

成り立ち

佐久島は約2500万年前に海中で堆積して出来た島で、三河湾のほぼ真ん中に位置し、面積は1.81km²。海岸線の総延長は約11km。標高は高い所で38.0m。

崇神天皇（すじんてんのう）の頃（前1世紀）、伊勢の斎宮の郷に作彦という臣がいました。伊勢志摩の島を見回る折に島を訪れ、その景勝を大いに気に入って移り住み、農業を始めたことから「作島」と呼ばれるようになったと伝えられています。

佐久島の地層からは縄文土器の破片が発見されており、弥生時代のものの貝塚も三か所見つかっています。1世紀から3世紀にかけて作られた、さまざまな様式の弥生式土器も出土しています。

海を生活の場とした海部族の末裔たちによって、江戸時代には海運業で繁栄しました。八剣神社本殿や、八日講祭り、西の盆踊りは、そのころの佐久島独自の文化を今に伝えています。



佐久島全景

昭和29年、佐久島村は一色町に編入合併。

平成23年一色町は吉良町、幡豆町とともに西尾市に編入合併されました。

アートの島

佐久島のアートは、国土庁の島づくり構想がきっかけでした。

平成8年に「島を美しくつくる会」を発足。島民との協働作業が始まりました。島の人たち総出で環境整備を始めました。有名なアーティストが来島して話題性もありました。が、だんだん島の人の参加が減ってきて、このままでよいのかという声さえ上がってきました。

そこで、もう一度島の人たちで島を考えてもらうことになりました。黒壁の路地が続く家並み、迷路のような細い路地、ゆったりとした時間の流れなど、当たり前なのが島の財産だと気付きます。

平成13年にはアートプロデューサーを変更し、「祭りとアートに出会う島」をテーマに「三河・佐久島アートプラン21」が始まりました。

島の伝統であり、島の人たちをつなぐ祭りと、現代表現であるアートがお互いに刺激し合うように仕掛けました。

家並み、道路整備などは島民が、アートは専門家がと分業させ、取り組みの仕方を変更しました。

野外展示作品は展示期間が終了しても島に残し、いつ来てもアートに出会えるようになっています。

「アートを通して佐久島を観て、感じてほしい」と思いを語るプロデューサーは、佐久島の隅々までを知り尽くした人が担っています。



アート作品：おひるねハウス/南川祐輝

佐久島で行われているSDGsな活動

圧倒的にマンパワーが足りないこの島では、島に関係を持って活動していただくボランティアに頼っています。以下の活動は島外の方たちに参加いただいて活動を行っています。



藻場の再生活動

海に起きた異変はめぐりめぐって人間の生活にも悪影響を及ぼします

佐久島中学校（現在はしおさい学校）では、1人の生徒の思いから2002年より総合学習で「アマモを増やして藻場を再生する活動」を始めました。

2006年からは島外のボランティアを募って活動を開始。現在も後輩たちに受け継がれています。





里山保全活動

自然環境と生物の多様性を守っていくことが必要です

佐久島の山は、保安林指定や三河湾国定公園内にあるため伐採、開発がある程度規制を受けています。もともとは里山。里山とは人の手が入った森や林のことを指します。

その昔燃料を松葉や柴に頼っていた時代は山はとてもきれいでした。山は海に栄養を送り込む大切な場所です。今では耕作地が放置され、森が放置され荒れた山になっています。

山にある雑木は、落葉樹に当たる日光を遮るので、伐採します。

落ち葉は土に栄養を作り、土に染み込み、その栄養が海に流れ込みます。



12 つくる責任
つかう責任



14 海の豊かさを
守ろう



漂着ゴミ回収活動

このゴミを減らすのは普段のあなたのちょっとした気遣いです

海岸のゴミ。このゴミはどこから来たのでしょうか。島の人が捨てているのか、観光客の人が捨てているのか。

これは皆さんの住んでいる街から流れてくるゴミなのです。

漂着ゴミの70%は家庭ごみ、その次に多いのは事業系のゴミになります。ペットボトルや食品容器が目立ちます。

私たちはゴミ拾いを楽しく出来るようにビンゴカードを作成して漂着ゴミの問題を皆さんに発信しています。





家並み保存活動

人がずっと住み続けられる街をつくるために

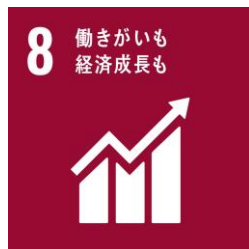
かつては家屋（板壁）に、漁師にとっては身近な材料であるコールタールを塗って「塩害」から家を守っていました。大正頃からの家も残っており黒壁の家並みが続きます。

また、路地の辻はきちっとした四つ角ではなく、島特融の風が集落を通り抜けやすいようにしているためと言われています。

島の家の間取りは、玄関を入ったところに土間（キッチン）、部屋は田の字で4部屋という形式が多く、また土間には収穫したさつまいもを保存する芋穴と燃料にする松葉を収納できるロフトがありました。

この家並みを保存する「黒壁運動」を毎年行っています。





特産品の開発

2：生態系を守り、土地がやせないように農業を行う

8：働きがいのある人間らしい仕事をすべての人が得られる社会

遊休農地の有効活用としてサツマイモの栽培を始めました。佐久島で収穫したサツマイモを「サクのいも」というブランドにしました。

佐久島ならではの土産も無かったことから、島民が作ったサツマイモを使って焼酎を醸造しました。

島のサツマイモは、潮風を浴び、乾燥させたヒトデやナマコ、海藻なども肥料にして自然の恵みがたっぷり詰まった甘ーい芋に育ちます。



潮風が育んだ、
なつかしい、
佐久島のさつまいも。





現在では人口**200人**ほど（65歳以上の高齢者は57%）になってしまった佐久島は、これらの環境保全活動を15～20年前から行っています。島の若い人は外に出て行ってしまう。人がいないと活動が滞る。消滅する可能性もある。などすぐ身近に危機感がありました。15年前の人口は**320人**です。

まさに「持続可能な社会が実現できているか」を考える場所です。この小さな社会で「持続可能とは何か」を体感する教育。

島民とボランティアのパートナーシップをより密に強く結んで活動を続ける。

ここ佐久島から発信し続けます。

こどもの声があふれる島にしたい。 島民の願いです。

- 先祖代々受け継がれる佐久島太鼓の奉納
- 佐久島のお祭り & 餅投げ
- 自給自足できる畑



これらは、子供がいないとつながりません



公式ウェブサイト: 癒しとアートの島 佐久島

<https://sakushima.com>

この想いを実現できるよう力をお貸しく下さい。

愛知県 西尾市 交流共創部 佐久島振興課

TEL 0563-72-9607

FAX 0563-72-3502

sakushima@city.nishio.lg.jp